

「データサイエンス」理解深める

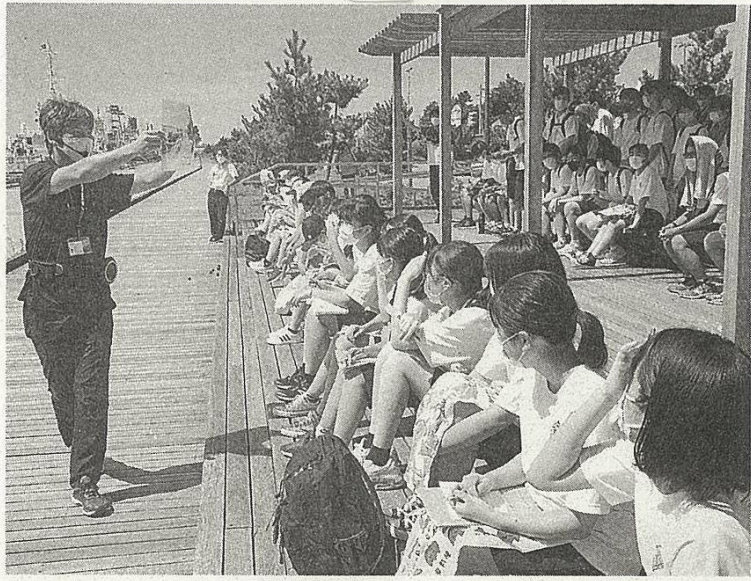
酒田東高探究科 SDGs 講義や市内探訪 地域課題考える

県立酒田東高校(大山慎一校長)の探究科1年79人による「探究科研修」が19、20の両日、校内をはじめ酒田市内一円で行われ、生涯にわたる学びの基本姿勢を身に付けるとともに、大量

のデータを分析する力「データサイエンス」について理解を深めた。同校は2018年度、課題を主体的・協働的に解決する「探究型学習」に重点を置いた「探究科」を開設。

一方、本年度から5カ年にわたって、将来の国際的な科学技術人材の育成を図るため、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う高校「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を文部科学省から受けた。

今回は、世界や日本、地域の課題に関する「探究活動」を行い、分離融合型の探究プロセスの獲得など学びの基本姿勢、講義を通じて各種データの取り扱い法を身に付けてもらおうと企画。初日は山形大理学部の教員、酒田市とデータマーケティングを活用した地域活性化に関するパートナーシップ協定を締結する「True Data」(東京都)の社員がデータサイエンスについて画面越しに講



小林さんの解説に聴き入る酒田東高の生徒たち 20日午後、酒田港

義した。

2日目の午前、SDGs(持続可能な開発目標)について研究している東京都大環境学部の佐藤真久教授(環境教育、国際教育協力など)によるオンライン講義など。午後からは「ジオパーク」をテーマに市内を探訪。NHK総合「プラタモリ」113山形・酒田」で、タモリさんらをアテンとした市交流観光課の小林和也さんの案内で酒田港、日和山公園、皇大神社(神明さん)、光丘文庫などを歩いて回った。

このうち日和山公園海側の入り口から神明さんに続き

く「芭蕉坂」で、小林さんは俳聖・松尾芭蕉について述べ、「日本三大急流の一つに数えられる最上川だが、時速3〜4キロと本来はゆっくり流れる川。芭蕉が『あつめてはやし』と詠んだため、急流のイメージが付いた」と、酒田の繁栄を支えた舟運に取って代わった鉄道に関し、「酒田港駅が開業した当時、人口流出が進むのではと危惧された。これと同じことが現在も起きている。人口流出は喫緊の地域課題」と指摘した。分かりやすい解説に生徒たちはメモを取りながら熱心に聴き入っていた。

生徒たちは帰校後、グループ単位で地域課題を抽出し、まとめる作業に取り組んだ。